

教科別授業改善プラン（図工科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1)成果

- ・用具の扱い方について、使用経験を多くすることで改善・向上がみられた。例えば、4年生では彫刻刀を個人持ちにすることで、丸刀、平刀などの使い方を丁寧に指導することができた。さらに、5年生では、昨年度身に付けた技能をもとに「多色刷り」も行うことができた。

(2)課題

- ・生活においてこどもの知っていることが作品に表れるようになってきたが、豊かに想像し、思いを深めて作品づくりに取り組めるようにすること。
- ・鑑賞において見方や感じ方を深めていけるようにすること。

2 重点課題

1年	・用具の正しい扱い方を知ること。 ・つくりたいもののイメージを明確にすること。 ・作品を見合って、お互いの作品の面白さや工夫について感じ取って伝えること。
2年	・はさみやのり、筆などの用具を適切に使って、作品づくりをすること。 ・作りたいイメージをもち、自由な発想で作品を仕上げること。 ・作品を見合って、お互いの作品の面白さや工夫について感じ取って伝えること。
3年	・想像したり、自分なりの見方や感じ方を広げたりすること。 ・身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、いろいろな表し方などについて、感じたり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
4年	・想像したり、自分なりの発想や構想を広げたりすること。 ・身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、いろいろな表し方などについて、感じたり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
5年	・表現したいことのイメージをもったり、創造的に発想や構想したりすること。 ・自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。
6年	・表現したいことのイメージをもち、創造的に発想や構想をし、自分らしい表現を追求していくこと。 ・自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

3 授業改善策

1 年	・ 絵画材（クーピーやクレパス、絵の具など）や用具（はさみやのりなど）の使い方の基礎を繰り返し指導すること。 ・ 活動前に見通しがもてるように、作業の流れを明確にしておく。 ・ 児童がイメージしやすいように、発想の基となるものを複数提示する。 ・ 友達の作品の良いところに気付き、その気付きを自分の作品に生かすことができるよう、活動途中や活動後の鑑賞の時間を充実させる。
2 年	・ はさみ、のりなどに十分慣れるように、活用する機会を増やす。 ・ 写真などを活用し、自分が思い描くイメージをつかませてから、制作させる。 ・ 作品を見る視点を与えて、鑑賞する機会をもつ。
3 年	・ 児童の発想が広がるように、題材設定の工夫をする。 ・ 制作している過程の中で、一人一人への声掛け・アドバイスをする。 ・ 鑑賞において、工夫した点や発見したことなどを、発表させる機会を多く設ける。
4 年	・ 児童の想像が広がるような導入の工夫をし、イメージを膨らませる。また、アイデアスケッチを描いて、表したいことを見つけさせる。 ・ 制作している過程の中で、一人一人への声掛け・アドバイスをする。 ・ 鑑賞において、工夫した点や発見したことなどを、発表させる機会を多く設ける。
5 年	・ 児童の発想が広がる題材設定をする。また、アイデアスケッチに描かせる。さらに、アイディアが浮かばない時は、本やタブレット端末で調べ、イメージを広げる。 ・ 制作している過程の中で、一人一人への声掛け・アドバイスをする。 ・ 鑑賞において、工夫した点や発見したことなどを、発表させる機会を多く設ける。
6 年	・ 児童の発想が広がる題材設定をする。また、アイデアスケッチに描かせる。さらに、アイディアが浮かばない時は、本やタブレット端末で調べ、イメージを広げる。 ・ 制作している過程の中で、一人一人への声掛け・アドバイスをする。 ・ 鑑賞において、工夫した点や発見したことなどを、発表させる機会を多く設ける。
共通	・ 鑑賞において、ICT 機器を用いて自分の感じたことや考えたことを表し、共有できるようにする。